

# 「すっきりアフリック」

JICAセネガル事務所メールマガジン 第97号

2014年9月8日配信

## 目次

### ◆巻頭言

「Per diem の呪縛」

- ・セネガル事務所次長  
柴田 和直

### ◆活動紹介

「少なく買って高く売るために  
—PROCOVAL の活動紹介」  
・PROCOVAL プロジェクトチ  
ーム

### ◆われらが協力隊！

「私たちの村はキレイですか？」

- ・24年度2次隊  
村落開発普及員 若穂井 潤

### ◆コラム

「「セネガル協力事業ナレッジ  
共有勉強会」が始まりました！」

- ・所員 企画タスク 苗村 真喜子

### ◆ひといき

「新人職員の海外 OJT」

- ・JICA 新人職員 中島 弘司

### ◆ひといき2

「セネガル漁業関係者が日本で  
さかなクンと再会しました！」

- ・所員 水産担当 中谷 美文

### ◆事務所より

- ・お知らせ
- ・人の動き 等

## ◆『巻頭言』 セネガル事務所次長 柴田 和直

### 「Per diem の呪縛」

こんにちは。皆様お元気でしょうか。昨今の西アフリカは、すっかりエボラの問題で席卷されていますので、へそ曲がりの私としては別の問題を取り上げてみたいと思います。

8月中旬、あるドナー会合の調整役からメールが飛び込んできました。「…省の統一の日当宿泊料導入について、大臣からドナーに同意が求められている。3日後までに意志表明が無ければ、受け入れたものと見なす」という内容。この省の日当宿泊料は、JICAが適用するものよりかなり高く、実は数年前から適用を求められて断ってきたものでした。バカンス期間にこういう調整をするのも問題だと思いつつ、「受け入れられない」とメールを返しました。

プロジェクト現場の皆様には周知のことですが、研修やセミナーに参加して技術や知識を身に付ける「受益者」が同時に日当(Per diem)をもらう、という、日本的感覚？からは抵抗のある習慣・制度は、アフリカではどこにでもある現実です。正当な出張旅費ならともかく、これを越えた活動参加のインセンティブとして、支払いを求められることが少なくありません。

セネガルでは、2006年7月10日大統領令2006-597号で、公務員の出張経費手当(Indemnité pour frais de mission)として、州を越えた最短70km、18時間以上の移動のある国内出張の宿泊費と食事のために、1日当たり局長以上25,000FCFA(約5,500円)、課長

以上 20,000FCFA(約 4,400 円)、それ以下は 15,000FCFA(約 3,300 円)が支払われると規定されています。そして、この手当は出張実施後の後払いとなっています。しかし、前述の通りこれとは別の基準を設ける省庁があるとともに、各ドナーの日当基準はばらばらで多くの場合これより高く、大統領令通りの適用はかなり限定的になっています。ドナー支援の多い分野では、日当宿泊料が低いと参加者の不満が出て、円滑な活動実施に影響が出ることもあります。一つの解決策は、「出張旅費は全て政府側負担」と案件開始前に合意することですが、カウンターパートは常に立替払いの出張となり、活動スケジュール等に影響が出るのも現実です。

高額な日当は事実上の給与となって政府職員のインセンティブを歪め、ひいては国家財政を圧迫し、行政サービスを高コストにしてしまいます。あるセネガル人の友人は「日当の支払いを一切止めたら、本気で働く気がある人とそうでない人が分かるわよ」と私に言いました。

セネガルの全体ドナー会合(G50)では、今年重点活動として、政府と協議しつつ「日当の共通化」に取り組むことになりました。各ドナーの制度と意識の大きな違い、国の制度に依拠し切れない制約の下で統一は容易ではなく、高いレートへの統一を防ぐ必要もあります。自立した、持続的な行政機能を構築するため、援助機関そして政府の意識が問われています。

## ◆活動紹介

タコやイカ、アワビなどを日本にも輸出していて、水産業が盛んなセネガルですが、水産資源の減少が問題になってきています。その問題解決に取り組むチャレンジングなプロジェクト「PROCOVAL(プロコバル)」を紹介します。

### ～少なく獲って高く売るために—PROCOVAL の活動紹介～

#### PROCOVAL プロジェクトチーム

セネガルは西アフリカで有数の水産国ですが、漁獲物が以前に比べて小さくなったり少なくなってきたりしている現状があります。そこでこの課題に対して、近年、漁民の頑張りや行政のサポートで禁漁期間を設けたり、

産卵前の未成熟魚を保護したりといった魚が減らないようにするためのルールをみんなで守る水産資源管理活動が全国に広がりつつあります。

PROCOVAL(「バリューチェーン開発による水産資源共同管理促進計画策定プロジェクト」の通称)は2013年まで行われていた水産資源管理プロジェクト COGEPAS\* を引き継ぐ形で水産資源管理活動をさらに促進するため、ンブル県の漁村を対象サイトとしてバリューチェーンの構築、つまり、「少なく獲って高く売る」ための仕組みを考え、実現することを目的としています。1年次の現在はセネガル水産物の付加価値化を見込める市場のニーズ調査(魚を買う側)と、ニーズに合った水産物品質改善の調査(魚を獲る側)を実施しています。

プロジェクトを構成する専門家は資源管理の他、水産開発、水産施設、水産物輸出、マーケティング、組織強化など多彩で、幅広い分野から水産資源管理活動を促進し、セネガルの水産物の評判を上げるための活動をしています。

\*COGEPAS「漁民リーダー・零細漁業組織強化プロジェクト」(2009年～2013年実施)



漁民ヒアリング(ポワントサレン)



品質検査室(中央魚市場)



日本人専門家の技術指導により、釣ったタコを活かした状態で浜まで持って帰ることに成功。(ポワントサレン)

## ◆われらが協力隊！

現在派遣されている隊員の中で唯一、電気がない任地で2年間生活・活動をしてきた若穂井隊員。たくさんの活動を手掛け、成果を上げてきましたが、任期の最後に彼が投稿してくれたのは「ゴミ問題」でした。セネガル全国で問題のゴミですが、小さな町での取り組みはどのようなものだったのでしょうか？

### ～私たちの村はキレイですか？～

#### 若穂井 潤

隊次：平成24年度2次隊

職種：村落開発普及員

任地：タンバクンダ州クンペントウム県マレムニャーニ市

私の任地マレムニャーニは、首都ダカールからマリへと続く国道1号線を東に約390km進んだ所にあります。平成24年10月に赴任し、残り任期もわずか。今はお世話になったセネガル人との別れを惜しみつつ日々を送っています。

私の任地は、電気がなく、大きな常設市場やガソリンスタンド等のない静かでのどかな村です。住民のほとんどは農家で落花生等を売り現金収入を得て細々と暮らしています。そんなマレムニャーニにも「ゴミ問題」が見られます。特に、買い物をした時にもらう小さな黒いビニール袋。これは村内の至る所に散らばっており景観を乱すばかりでなく、土壌への影響も心配されます。私は活動の一環としてこのゴミ問題を解決するべく取り組んできました。

住民を対象として行った啓発の一つをご紹介します。啓発を始めるにあたって、ひとつの映像を作りました。その映像は、村内のゴミが落ちている風景を撮った写真を何枚も連続して流し続けるというものです。これを見た人たちは、「ここはどこ？」「本当に私たちの村なの？」「こんな恥ずかしい映像日本に持って帰らないでね」等、反応は上々。これらの反応から、日々何気なく通り過ぎていて、村が汚れていることにさえ気付いていないということが分かりました。この映像を多くの女性グループに見てもらい、今後どうすべきか、話し合いをしてもらいました。その中で、自主的に掃除をしようと動き始める女性グループが出てきました。この動きを継続的なものとするため、行政との話し合いや助言を行い、行



政主体で取組んでいく方向に道を整えることができました。

マレムニャーニは静かでとても美しい村です。そんな美しい村の風景と子供たちの世代に続く豊かな土壌を守るため、村人の継続的な活動によりゴミ問題が改善することを願いつつ、帰国の途につきたいと思います。

## ◆コラム

セネガル事務所では、協力事業で得られた知見を、分野を超えて共有・議論し、活動のインパクト拡大や効率化、協力手法の革新の一助とすべく、勉強会を開催することになりました。今後、「すっきりアフリック」のお知らせ欄で開催予定を掲載していく予定です。

### ～「セネガル協力事業ナレッジ共有勉強会」が始まりました！～

所員 企画タスク 苗村 真喜子

このたび、専門家の皆様のご協力をいただき、セネガル協力事業ナレッジ共有勉強会を、2014年8月より毎月開催することになりました。

第1回目は、8月末で4年間の任期を終えられた、「教育環境改善プロジェクト フェーズ2 (PAES2)」のチーフアドバイザー國枝専門家より、プロジェクト概要、住民参加を促進する仕組みづくりやモデル構築の考え方、カウンターパートの主体性強化の極意など、現場での気づきや工夫など発表いただきました。当日は、専門家、協力隊、事務所スタッフ等、総勢40名を超える出席となり、プロジェクト運営上の困難やその解決策、他ドナーとの連携、カウンターパート・ステークホルダーの巻き込みについてなど、活発な意見交換が行われました。

今後も、セネガルでの様々な事業で得られた知見を、分野を超えて共有、議論し、今後の協役に役立てていくことを目的に、勉強会を開催していきます。加えて、各回、所長から JICA の動きを紹介するセッションも行います。

今回は、9月19日(金)に水産行政アドバイザーの池田専門家に発表いただきます。みなさま、ふるってご参加ください。

## ◆ひといき

### ～新人職員の海外 OJT～

#### JICA 新人職員 中島 弘司

JICA の新人職員研修でセネガル事務所に 7 月から 9 月まで配属となっている中島です。研修先がセネガル事務所と決まった時は、「日韓ワールドカップに出ていたアフリカの国」程度の知識でしたので、セネガルの大地を実際に踏み、この地で出会う人や文化、環境すべてが新鮮でセネガルを体感する日々を送っています。

さて、先週はルーガ州にあるダーラ村という村落で数日間ホームステイをさせていただきました。お世話になった一家は子宝に恵まれ 8 人のお子さんがいて、母親は家事、育児で忙しそうにしていたのですが、長男次男が母親の手伝いをしていました。そんな長男は、家族の手伝いの合間に、通っている高校の難しい数学や生物の教科書を見せてくれました。彼の夢は村の町医者になることだそうです。一方、父親は、仕事のない日、子どもたちにコーランを教え、一緒に昼寝し、時に子どもたちをしかり、子どもたちと多くの時間を共有している姿が印象に残っています。子どもたちからセネガルの将来の希望を感じつつ、この体験を通して自分の時間の使い方や家族のあり方について考えさせられた時となりました。

その他、海外 OJT 期間では、事務所の各班(JOCV 班、総務班、事業班)での業務を通して JICA 在外事務所の役割を学んでいる他、CODEVAL(劣化土壌地域における土地劣化抑制・有効利用促進のための能力向上プロジェクト)や PREMST2(理数科教育改善プロジェクト・フェーズ 2)に配属となり、技術協力プロジェクトの現場の仕事やセネガルの現状を体験を通して理解を深めています。

この OJT の後は、東京の本部で資金協力業務部という無償資金協力に関わる部署に戻り、本格的に業務につきます。今後の業務に活かすことができるように、残りの滞在期間も、現場の視点や現状の理解のために積極的に業務に取り組んでいきたいと思えます。



## ◆ひといき 2

～セネガル漁業関係者が日本で“さかなクン”と再会しました！～

所員 水産担当 中谷 美文

漁業・海洋経済省の池田専門家が、ンジャイ次官とグジャビ第1技術顧問と一緒に日本へ出張、ジャパンインターナショナルシーフードショーや船橋漁協を視察しました。その際、昨年セネガルを訪問した「さかなクン」と再会！なんと閉館後のしながわ水族館を案内していただきました！そして、この様子はさかなクンの Facebook でも紹介されています。「来年のシーフードショーにはセネガルからも出展したい」とンジャイ次官。アフリカからの初出店に意欲的です。



## ◆事務所より

### ■■ 安全情報 ■■

1. タバスキが近づいてきました。この時期は、タバスキを祝うためにまとまった資金が必要になることから、例年、強盗などの犯罪が増加傾向となります。金品の管理には、普段以上に十分留意してください。特に、ATM等からまとまった現金を引き出す場合は、直後に狙われるリスクが高くなります。なるべく多額の現金を持ち歩かないよう、引き出したらすぐに帰宅し金庫へしまうなどの対応ができるタイミングで引き出すなど、ご自身のリスク回避策を取るよう心がけてください。
2. ダカル大学での奨学金未払い等を巡る学生の抗議活動において、警察との衝突により学生が死亡した事件を発端として、ダカル大学周辺での学生による暴動や警察との衝突などが発生するリスクが一層高まっています。つきましては、特に近隣の CHEIKH ANTA DIOP 通り で騒ぎが起こりやすいため、利用する際には、十

分注意頂くとともに、少しでも様子が変わったと感じた場合は同通りを利用せず引き返すなどのご対応をお願いします。

## ■■ 健康情報 ■■

### マラリアについて

マラリアの季節です。蚊帳、虫除けなど防蚊対策にいつも以上に気を配りましょう。予防薬の飲み忘れもないように気をつけてください。38度以上の熱が出たときは、医療機関を受診し、マラリアのテストもしてもらうように心がけてください。

\* エボラ出血熱に関しては前号でお知らせした通り、引き続き適切な対応をよろしく願いいたします。

## ■■ お知らせ ■■

### ◆祝！ボランティア派遣者数 1,000 人到達！

来たる9月30日、セネガルへのボランティア派遣者数が1,000人に達します。記念すべき1,000人目を含む26年度2次隊がセネガルへ降り立つこの日、20時20分ごろより、空港で記念イベントを開催する予定です。お時間のある方は、ぜひ空港へお越し下さい！

### ◆「ABE イニシアティブ」応募開始(9/1～10/31)

アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ(African Business Education Initiative for the Youth)、通称「ABE イニシアティブ」は、アフリカ諸国で産業開発を担う優秀な若手人材を留学生として日本へ受入れ、大学院での教育(修士課程)と、企業でのインターンシップの機会を提供するプログラムです。セネガルでは、農学・水産系、工学系、土木・建築系、経営学系の学士号以上を持つセネガル国籍の若者が対象となっています。

詳しくはコチラ: <http://www.jica.go.jp/senegal/english/activities/private06.html>

### ◆研修・調査団

- ・事後評価調査「タンバクンダ州給水施設整備計画及び農村自立発展プロジェクト」(9/1～9/25)
- ・在外事務所長会議(東京)(9/8～9/12)
- ・ダカール首都圏都市開発 M/P Kick-off セミナー(9/22)



#### ◆事務所内行事

- ・JOCV24 年度 2 次隊、24 年度 1 次隊(延長) 最終報告会(9/18)
- ・JOCV24 年度 2 次隊、24 年度 1 次隊(延長) セ政府関係者向け帰国報告会(9/19)
- ・セネガル協力事業ナレッジ共有勉強会、講師：池田専門家(水産行政アドバイザー)(9/19、17:30@JICA セネガル事務所)
- ・JOCV 1,000 人到達イベント(9/30)

#### ◆人の動き

- ・着任：深井企画調査員(9/7)
- ・着任：岡田所員(9/11)
- ・着任：矢野企画調査員(9/13)
- ・離任：24 年度 2 次隊 8 名(9/21)
- ・離任：24 年度 1 次隊 1 名(9/22)
- ・離任：中島 OJT 職員(9/26)
- ・着任：26 年度 2 次隊 19 名(9/30)

#### ◆配信希望募集

セネガル発『すっかりアフリック』(月刊)の配信希望を承ります。ご希望の方はその旨「JICA セネガル事務所広報タスク宛」に下記お問合せ先メールアドレスまでお知らせください。また、配信中止ご希望の方も同様にお知らせください。

◆「すっかりアフリック」がセネガル事務所ホームページ内でもご覧いただけます！

<http://www.jica.go.jp/senegal/office/index.html>

#### ◆記事投稿歓迎

記事の投稿を広く歓迎いたします(ただし掲載可否判断、校正等を編集部にてさせて頂くことがありますのでご了承ください)。皆さまからの興味深い記事をお待ちいたしております。

---

---

『すっかりアフリック(Suxali Afrique)』はウォロフ語で『アフリカの発展』を意味します。

発行元：独立行政法人 国際協力機構(JICA) セネガル事務所

お問合せ：sn\_oso\_rep@jica.go.jp

JICAセネガル事務所 URL <http://www.jica.go.jp/senegal/>

---

---